

## 2023年夏季 参加報告書

参加プログラム：トゥレーヌ学院

参加時の学年：2年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化



今回の留学の目的は、協定留学に向けて語学の習得へのモチベーションを高めることだ。またフランスの生活文化を知り、理解を深めることである。実習では私の拙いフランス語でもなんとか会話が成立したことが嬉しかった。知らない表現も知っている単語を使って伝わるので世界とのつながりを実感し、語学の楽しさを最大限に堪能した。

生活文化においては食器について触れたい。私は食器に興味があるのでフランスでの食生活を目の当たりにできたことが魅力的だった。毎日食卓にはテーブルクロスが敷かれ、皿を中心としてスプーン2本、フォーク、ナイフ、コップが必ずセットされていた。食器は大皿1枚と、ガラスのデザート皿の2種類を使用していた。ただしフルーツは食事と同時に取り、大皿に乗せるものであってもその時に応じてカトラリーを用意する。対して日本では、お茶は飲みたい人がコップを出して飲むし、カレーの時は箸は出さず、その時に応じてカトラリーを用意する。お皿も和洋中に合わせた食器を選んで使っている。その違いや使用方法を知り、更に食器への興味が募った。

ところで日本ではパン屋で買い物をするとう個別包装が施されるが、フランスではフランスパンは包装なしで購入し、手持ちをすることが印象に残った。虫がパンに乗っていても気にしないし、野菜はスーパーでも量り売りとなっていて必ずエコバックを使用する。私が最も驚いたのは、庭の手入れなど面積が大きいにもかかわらず自分でするものだという。私のホストファミリーは日曜日に丸一日かけて庭を手入れしていた。誰も虫を怖がらず、話していて自然を大事にしていることを感じた。

実習において感じたことは、意見を述べるためには自分から話さないと、勢いに圧倒されて何も話せないということだ。語学力を向上させたいなら待つだけではだめであるとわかった。また、毎朝家のテレビではフランスのニュースが放映されており、当たり前だが世界中には様々なニュースがあることに改めて気づき、世界のニュースも知りたいと思うようになった。授業中に各国の文化について話し合う時間があったが、思ったより自分が日本の文化について知らなかったので、他国の文化だけでなく日本の文化も知りたいと思った。間違えてもどうにか伝えるために、言い方を変えてみたり身振りを使ってみたりして話すのが楽しくなったことに自身の成長を感じた。日本で会話練習をするときは、間違えないように正しい文法を考えてから発言していたが、現地ではそんな暇はなかった。クラスメイト達は文章を整える前に手を挙げ、話しながら考えていたので、私も間違いを気にせず発言をすることができた。また、話すことで自分が簡単な単語さえとっさに使えないことを知り、もっと勉強をしないとけないことを反省した。

今後の目標は、聞き取りが苦手なことがわかったため、日々フランス語でニュースを聞き、語彙力や表現の仕方を増やすことだ。特に話し合いにおいて、一度に多くの人の意見を聞かなければならないときに思考が追いつかないので、しっかり頭を切り替えて話を聞くように心がけたい。今回の留学では、普段かかわりのない人に話しかけることはほぼなかったため、次回の留学では外にいる知らない人とも会話をしてみたい。また、フランスの生活文化、食器文化についてもっと学習してから観光をしたい。

